

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

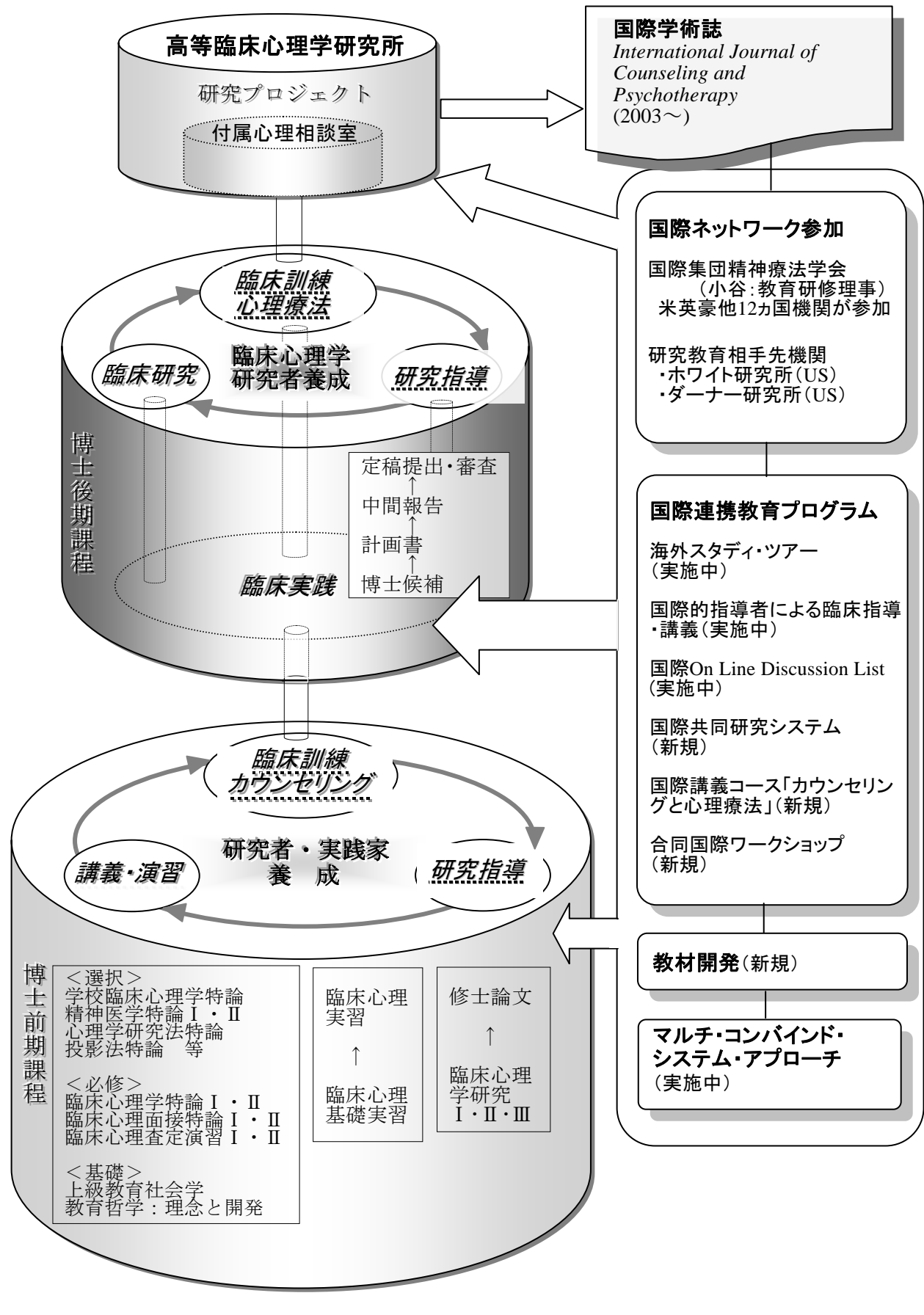
◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	国際基督教大学	整理番号	a027
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	臨床心理学教育と訓練の国際連携システム		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 教育学、医学、保健学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (心理療法、心理アセスメント、地域援助、青少年問題、多文化教育)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 教育学研究科 教育原理専攻〔博士前期課程〕 教育学研究科 教育原理専攻〔博士後期課程〕	研究科長(取組代表者)の氏名 教育学研究科長 磯崎 三喜年	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>本学は『行動するリベラル・アーツ』教育の実践を通じて世界に貢献出来る人材を送り出すことを建学の理念・目標としている。このような人材は多文化社会にあってその心と体を強健に保ち、リーダーシップを発揮する事が要求される。「個」の確立を目指す本学のリベラル・アーツ教育は、人間の心の自由と独立を追及する学問としての臨床心理学を教育プログラムの基礎的支柱の一つとして重視してきた。特に、本学の臨床心理学の研究と教育は国際的枠組みと連携の中で実践する必要があった。過去20年来、本学臨床心理学プログラムは米国の草分け的大学院研究所「ダーナー高等心理学研究所」の研究・教育モデルを基準に展開し、海外有力研究機関の臨床心理学研究・教育システムと連携して国際標準の臨床心理学研究者の養成に取り組んで来た。その実績のもと2001年にICU高等臨床心理学研究所、及び臨床心理教育の実習のための「心理相談室」を設置し、翌年大学院教育・研究プログラムとして専修課程を開設した。また、活発な研究活動を世界に発信するために、この分野で日本初の英文学術誌“International Journal of Counseling and Psychotherapy”を定期刊行し、内外の第一線研究者達の寄稿を得ている。本申請「臨床心理学教育と訓練の国際連携システム」は、かくして本学の理念と目的実現の為の重要事業として位置づけられている。</p>			

機 関 名	国際基督教大学	整理番号	a027
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>現在までの主要な活動は、研究、国際教育、教授法開発の3軸に強調点を置いて展開してきた。</p> <p>1.研究プロジェクト 1)精神分析的心理療法と一般システムズ理論の統合 2)心理療法導入技法の体系化 3)青年期不適応問題(キレル／引きこもる)に対する特定心理療法技法と予防心理教育法の開発 4)統合失調症、人格障害等、心理療法展開が困難な対象に対する個人、集団精神療法及び統合技法の開発</p> <p>2.心理療法の国際連携教育訓練 1)海外スタディ・ツアー：ダーナー、ホワイトの2大研究所(ニューヨーク)における受講と共同研究ワークショップ、国際学会ワークショップ参加指導 2)国際的心理療法指導者による臨床指導と講義(年2回平均) 3)大学院教育方法に関する国際On Line Discussion Listの開設</p> <p>3.チーム・ティーチング・システムの構築(マルチ・コンバインド・システム・アプローチ) 全教員が教育・訓練に関わり、教育・訓練課程と成果の相互フィードバックを体系化していくシステムの構築。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>国際標準に則り、博士前期課程ではカウンセリングを、後期課程では心理療法を研究処方とできるよう臨床能力を訓練し、国際的フィールドの中で直接に競争力をつける研究者養成の組織化を展開する。</p> <p>1. 国際共同研究が可能な研究施設の整備:我が国の大学院における臨床心理学教育は、未だ臨床環境整備に精力が注がれており、研究環境にまで手が回っていない実情にある。臨床環境を整えた本学では、研究環境整備を進め、国際的研究課題となっている心理療法の技法と効果の臨床的、実証的研究を同じ条件で行えるよう国際標準の心理療法を訓練している。国際的に条件を統制した心理療法研究のできる研究設備は、目下アジアには見当たらない。国際共同研究ができるレベルの設備を整えて院生の研究訓練を進め、海外からの研究指導者の来訪を有効活用できるようにする。研究連携を米国に加え、ヨーロッパ、アジア・環太平洋諸国の研究機関へと広げ、共同研究を日常化することで院生教育を国際化して行く。</p> <p>2. 国際講義コース「カウンセリングと心理療法」の開設:海外の心理療法研究各領域の第一人者及び研究指導者による講義シリーズを、テレビ会議システムを用いて実現する。双方向討論をベースにし、講義-討論-総括を循環する講義コースの構造とする。既に10名前後の著名な講師候補者の関心を得ている。</p> <p>3. ポスト・ドクトラル合同国際ワークショップ:国際標準の心理療法訓練は、PhDに加えてポスト・ドクトラル・コースが基準となる。ドクトラル、ポスト・ドクトラルの継続体系的な訓練プログラムは、我が国には未だ確立されていない。本学で手がけているポスト・ドクトラル訓練に国際講師を増やし、参加者を国内外にオープンにして、国際標準の訓練機会を広くアジアに提供すると共に教育・訓練技法の研究も活性化する。</p> <p>4. 教材開発:研究成果をベースに、訓練法システムソフトと教材の開発を公開し、実用化を進める。</p> <p>5. 海外スタディ・ツアーの充実化:海外有力研究所を訪ね、若手研究者同士の直接交流機会を作る。</p>			

6. 履修プロセスの概念図

国際標準の臨床心理学研究者をめざして



機 関 名	国際基督教大学	整理番号	a027
<p data-bbox="165 203 587 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 297 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 491 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1430 616">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1225 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 680 1430 855">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が、優れており、期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 920 633 949">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="172 967 1430 1189" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="172 967 1430 1095">・これまでの国際連携教育や研究の海外発信の業績は優れており、これらの基盤を活用し、国際連携システムを導入し、「国際協力できる臨床心理研究者・実践者」を養成するという目的が明確化され、体系的な教育課程が工夫されている点は、今後の発展が期待できる。 <li data-bbox="172 1113 1430 1189">・ただし、教育プログラムの実現に向けて、教員組織の整備の面など、組織的な実施体制について、更なる工夫が必要である。 			